

# インターネットを活用した自主グループ間の 情報ネットワークの構築

平野 文子・山下 一也・齋藤 茂子・狩野 鈴子  
伊藤 智子・高橋恵美子・別所 史恵・加藤 真紀  
坂本 功・金築 利博・阿川 啓子  
青木 留美・飯塚 雄一\*

## 概 要

『地域を基盤とする看護教育への変革』が平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に選定され、グループ支援ネットワークとして、島根県下の自主グループと学内に設置した地域連携ステーションとの情報ネットワークの構築に取り組んだ。インターネットを活用することで会員や一般への情報発信や情報交換に有効だった。しかし、ホームページへの入力操作に困難性を認めるなど支援も必要としていた。これらの課題解決を図りながらメリット・デメリットを考慮したインターネットの活用は、今後、自主グループの機能強化に有効な手段となることが期待される。

キーワード：自主グループ、情報ネットワーク、インターネット

## I. はじめに

日本国内のインターネット利用者は2009年1月時点で推計9,091万人であり、人口普及率は75.3%となっている（総務省, 2009）。このようなインターネット環境のもと、オンラインネットワークを利用した自主グループが、全国に数多く出現するようになった。インターネット上におけるグループ間では、電子掲示板やメーリングリスト、メール交換などを介して、参加者の意見や実践的な情報を伝え合っている（阪本, 2002）。特にメーリングリストは、複数の人に同時に電子メールが配信（同報）され、特定の話題に関心を持つグループなどで情報交換をする場合に有用であり、多く利用されている。アルコール依存症などに代表されるグループ（セルフヘルプ・グループ Self-Help Group: SHG）では、問題の相互サポートと

して直接会うミーティング・定例会などを中心として活動されてきたが、今日ではこのようにインターネットを活用するオンライングループが出現し、その形態自体に変化を認めてきている。

われわれは、平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）による支援を受け、『地域を基盤とする看護教育への変革』と題して、これまで看護教育で用いられてきた疾患中心の「医療モデル」を、生活者のQOLを志向する「生活モデル」に転換した地域を基盤とする看護教育の試みを行った（文部科学省, 2007）。その中のグループ支援のひとつとして、島根県下の自主グループと学内に設置した地域連携ステーションとの情報ネットワークの構築に取り組んだ。今回は、その取り組みを紹介しながら、評価と今後の課題について報告する。

## II. グループに関する用語の定義

共通の問題や課題、悩みを抱えた当事者同士

\* 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス名誉教授

の集まりは、保健医療福祉領域では、当事者グループ、自助グループ、自主グループ、患者会、家族の会、SHGなど様々な呼称がある。

SHGについてはいくつかの定義があるが、その特徴として、メンバーが共通の問題をもち共通のニーズを満たす当事者であること、参加は自発的なものであること、メンバーは対等な関係であり仲間であること、感情を共有していること、共通のゴールを持っていること、基本的には専門家の関与がないこと、つまり素人による保健ケアである、などがある(Katz, 1976; 岡, 1995; 久保, 1998; Adamsen, 2001; 谷本, 2004)。また、SHGの主要な機能として、情報交換、サポート、提言(アドボカシー)などがあげられている(Liessman, 1985; 岡, 1994; 窪田, 2002; 谷本, 2004)。

本稿では、様々な呼称のあるグループについて、専門職の関与がないというSHGの条件の規定はせず、上記の定義、機能を全て含むものとして、「自主グループ」として示すこととする。

自主グループ：何らかの課題を抱える当事者とその周辺の人たちによる自助・独立と相互扶助および支援に基づく活動を行っているグループ。

### Ⅲ. 自主グループとインターネット

自主グループの機能を十分に動かすには、本来はグループのメンバー同士が集まり、顔を見ながら話すというのが基本であるのは言うまでもない。したがって、オンラインネットワークを利用したコミュニケーションの活用により、ネット上でどのような自主グループの活動が成立しうるのかは、未だははっきりとしたデータは少ない。

インターネットを利用した自主グループのメリット、デメリットについて考えると、次のようなものがあげられる。メリットとしては、いつでもどこからでもアクセスすることができ、自分のテンポで参加できる、メンバーとの情報がすばやく共有できる、低コストで交流できる、自分の課題や悩みを文章化することで問題点が整理される、記録が残っていくことで、過去の

記録の中からメンバーが自分に必要な情報を探することができるなどがある。また、体調不良の時や交通の便の悪い所でも参加できるなどもあげられる。さらに、オンラインネットワークでは、お互いに会うことなくコミュニケーションを行うため、自己開示の限定を場合によってはかなり意識的にすることができ、メンバー同士は現実社会で利害関係のない者同士なので、自分の話が相手に気兼ねなく自分の伝えたい範囲でできるという利点もある(川村, 2002; 岩本, 2002; 奥山, 2002)とされている。

デメリットとしては、「情報弱者」と呼ばれる人々は参加することができない、パソコンにある程度慣れていないと、文章化することができない、特にしぐさや声といった非言語的なメッセージが使用できないので、自分の気持ちや感情を伝えることが実際に会って話すより格段に難しい、責任の希薄さなどがあげられる(川村, 2002; 岩本, 2002; 奥山, 2002)。また、ネットワーク全体の問題として、プライバシーの流出、メールでの誹謗中傷やウイルスの流行といったトラブルから、どのように自分たちの安全を確保していくかということにも留意しなければならない(川村, 2002; 岩本, 2002; 奥山, 2002)。

このように、インターネットはその活用次第ではとても有効な情報ツールである。しかし、「情報弱者」となりやすい対象へのサポートやプライバシー保護をはじめとする一定のルールの遵守など、メリット・デメリットを考慮したインターネットの活用が求められていると言える。

### Ⅳ. 島根県における自主グループとインターネット

#### 1. インターネット活用による自主グループ間の情報ネットワークの構築

島根県は東西に長く、離島を有し、高齢化の進む中山間地域も多い。このような特徴をもつ県下の様々な自主グループ間のネットワーク化を行いながら、地域の健康課題を学び、学生・市民・関係者・大学の協働体制の一元化をはかる4者の連携拠点として地域連携ステーション

インターネットを活用した自主グループ間の情報ネットワークの構築

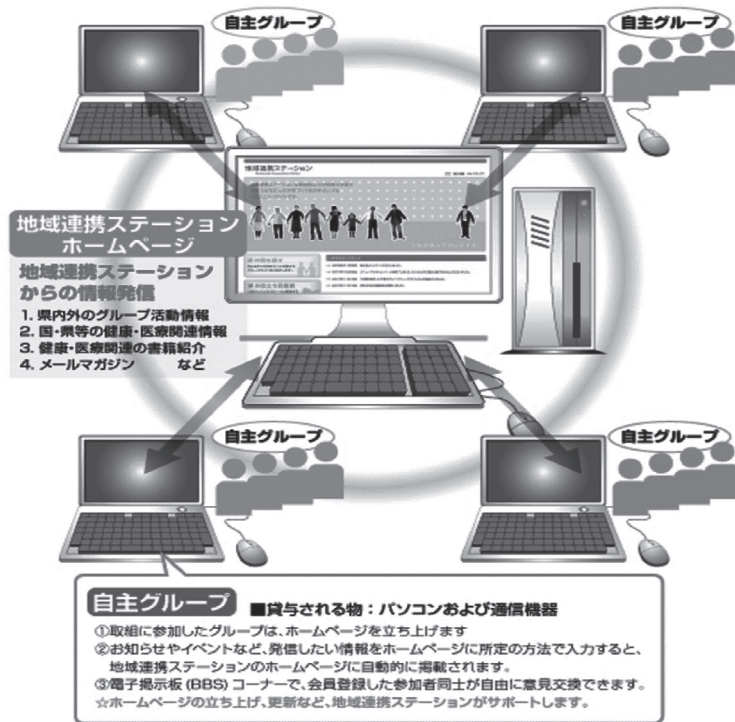


図1 情報システムの活用と仕組み

表1 ITネットワーク参加の自主グループ一覧

ジャンル	自主グループ名
がんサロン	(1)くつろぎサロン (2)がん情報サロン:ちょっと寄ってみません家 (3)ほっとサロン (4)益田がんケアサロン (5)ほっとサロン浜田 (6)ハートフルサロン松江 *がんサロン:がん患者がお互いの療養体験を語り合い、がん医療の最新情報などを学習する場
介護予防	(7)おおつ健康サークル (8)町内助け合いチーム:秋葉会
特別な支援	(9)島根県東部発達障がい者支援センター:ウィッシュ (10)島根県重症心身障がい児(者)を守る会 (11)島根県自閉症協会 (12)紫陽花倶楽部(軽度発達障がい児者家族の会) (13)チャイルドラインしまね
難病	(14)雲南市パーキンソン患者・家族のつどい (15)全国膠原病友の会島根県支部 (16)みつばの会(パーキンソン病患者家族の会)
認知症	(17)認知症の人と家族の会
自主防災・減災	(18)鳶巣地区自主防災会 (19)松江市法吉公民館 (20)宇波地区自主防災組織
子育て	(21)益田おやこ劇場(子どもの自主性・創造性を育む会) (22)ひだまりの会(不登校などの子を持つ親の集まり) (23)pont-de-ange(ポントアンジェ:発達障がいの子どもの構造化等を支援する会)
吃音	(24)島根セルフヘルプグループ(吃音の会)
自死遺族	(25)しまね分かち合いの会・虹(自死遺族の会)

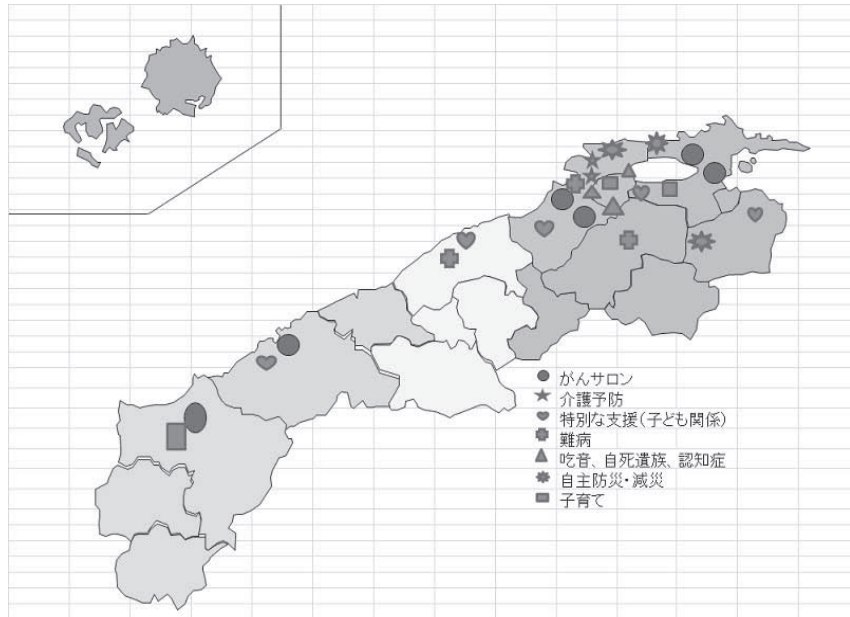
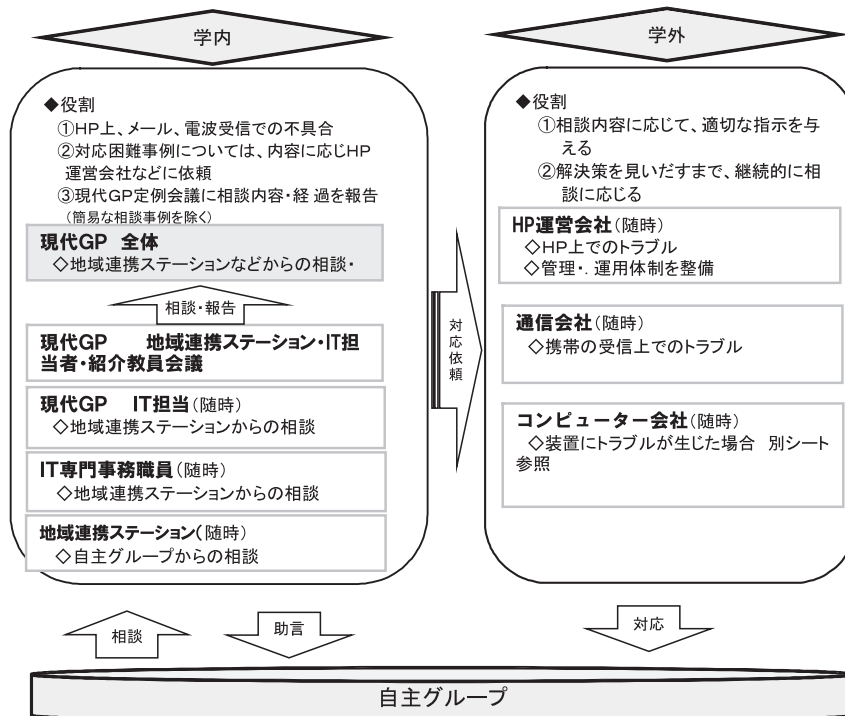


図2 島根県下に広がるITネットワーク (25の自主グループ)

### IT トラブル対応図



※IT 分野のトラブルや障害を、迅速かつ効果的に問題解決できるように、各担当が協力して問題解決にあたるものとする。  
 ※各自主グループHP上の管理責任についてはそれぞれの自主グループにあるものとする。

図3 トラブル処理の対応図

を学内に設置した。

情報ネットワークの構築としては、まず、距離や時間など情報交換の難しい環境下にある、島根の様々な自主グループにOA機器（パーソナルコンピューター：PC）を設置した。そして、

情報ネットワークのステーション機能を果たすために、本学の地域連携ステーションのホームページを立ち上げた（図1）。自主グループは通信ラインの存在しない場所で活動していることも多く、そのために携帯端末を機器に取り付

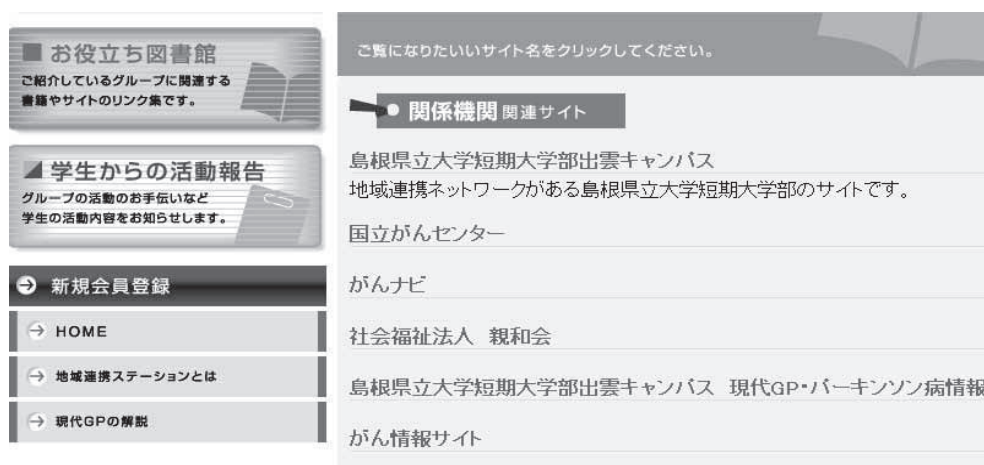


図4 島根県立大学短期大学部出雲キャンパスの自主グループ支援サイト例

け、通信可能なシステムとした。

具体的な経過と方法としては、平成19年12月にがん患者や家族が情報交換を行う「がんサロン」に初めてPCを設置し、ホームページへの記事掲載を行った。次いで、平成20年1月に様々な自主グループと学生、関係者が集った第2回現代GPフォーラムにおいてPC使用などのITネットワークのデモンストレーションを実演。2月以降、順次、介護予防に取り組む「健康サークル」、「認知症の人と家族の会」などの自主グループにパソコンの配置を行った。その結果、25台のパソコンが自主グループに設置され、それぞれの自主グループの元で活用された(表1・図2)。自主グループの活動報告などをはじめとする情報は、地域連携ステーションのホームページに集約され、また学生の意見についてもホームページ上に掲載した。

このシステムにより、1)各グループの活動を随時提供することで情報の共有化・一体感をつくる、2)グループ内外の情報伝達の効率化・迅速化の実現、3)グループ内外での意見交換や情報の発信を通して、相互理解、協力体制の促進が期待され、自主グループのエンパワメントの向上に寄与できるのではないかと考えた。

PC使用にあたり、グループでのパソコン操作の経験差がかなりあった。そのため、PC設置に伴い、機器の使用方法和ホームページへの記事作成・掲載方法についてのデモンストレーションを最低でも2回行い、そして、必要時、追加の説明や問い合わせに応じた。機器の作動トラブルのほか、プライバシーの流出やウイル

スの流行への恐れもあり、グループへのサポート体制のひとつとしてトラブル処理のための対応を行った。その対応図を図3に示す。この対応図に従ってほぼ全てトラブル処理はできた。

## 2. インターネット上での支援サイト

インターネット上で、患者が必要とする情報の提供は重要である。また、今日インターネット上での患者支援サイトは数多く存在する。しかし、肺がん治療情報を紹介するインターネット上の日本の主なサイトのうち、効果が立証されていない治療法を紹介するものが3~4割を占め、米国に比べて信頼性が低いことが指摘されている(毎日新聞 2009年9月29日)。したがって、信頼ある情報を提供するサイトを探し出すことが重要となってくる。

そこで、特定の企業の利益につながるような内容にはしないが、新薬やガイドラインの変更などを主な内容にするサイトをわれわれは立ち上げた。その1例を図4に示す。様々な情報が氾濫する昨今、保健医療等に従事するわれわれが信頼ある情報・サイトを探し出して提供することで、安心してその内容を活用してもらえることが必要と考え、取り組んだ。

内容は「パーキンソン病の新しい治療がまた増えました」というものであるが、実際にこのような新薬の情報は患者のところへはなかなか届きにくいことも多い。今後、自主グループの活性化にこのような支援サイトもしくは掲示板は有効であると思われる。

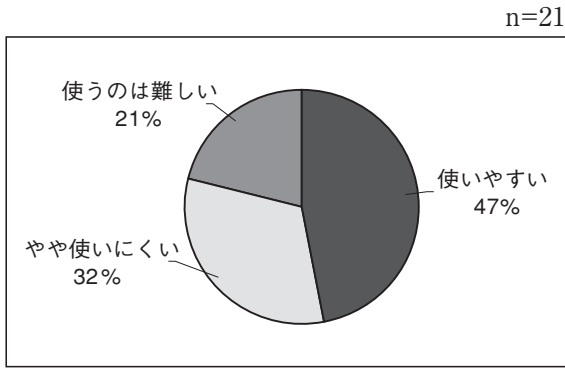


図5 ホームページの使いやすさ

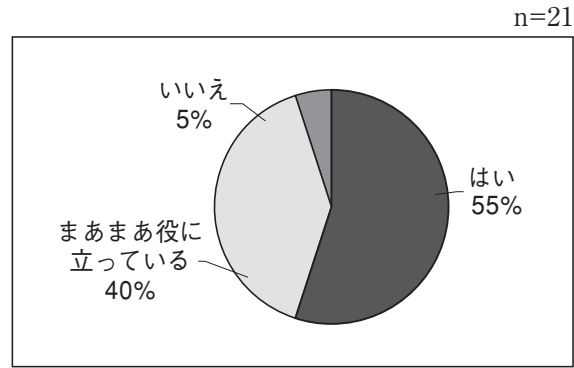


図6 情報ネットワークの活用状況

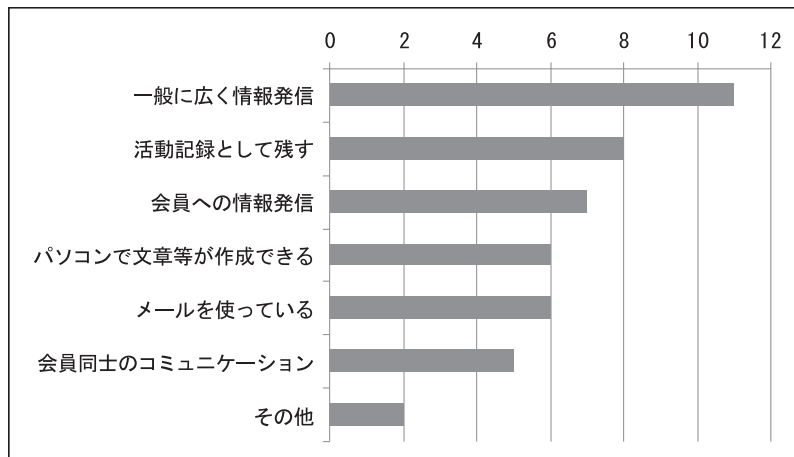


図7 情報ネットワーク活用の主な内容

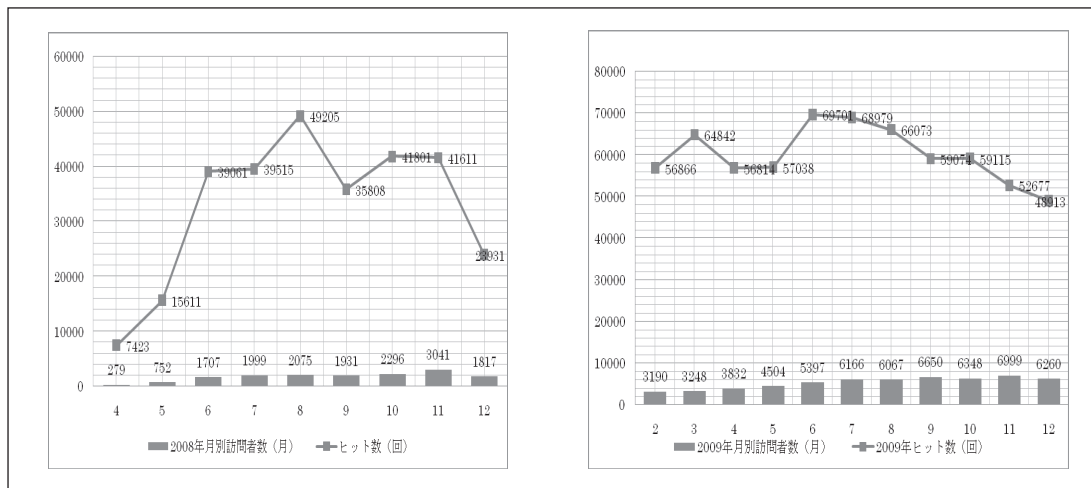


図8 地域連携ステーションサイトアクセス状況

### 3. 自主グループによる情報ネットワークの活用状況

自主グループでの情報ネットワークの活用状況について、PC設置から約1年～1年半後に聞き取り調査を行った。

自主グループからの意見例を以下に示す。

<良かった点>

・情報化社会へ近づいた

- ・活動内容が毎回更新してあり、好評だった
- ・サークル活動でホームページを披露したり、調理実習などインターネットから、食中毒予防の注意点など会員に知らせることが出来た
- ・ITに興味を持った
- ・他の会の情報を見ることができて良かった
- ・グループの運営に積極的となった

<困った点・課題>

- ・書き込みが難しいために、独自の方法で更新している（文字サイズや色の変更・写真挿入）
- ・交流相手が欲しい
- ・もっと病気やそれを支える家族の思いなど情報交換の場としたい
- ・情報発信後の皆さんの反応が知りたい

自主グループに設置されたPCの稼働は、故障も少なく推移していた。また、ホームページの使いやすさについては、使いやすい、使いにくいとの回答が半々であった（図5）。「とても難しい」と言うグループから「文字の大きさなどの詳細設定もできると良い」など高度な使い方の要求もあり、習熟度に大きな開きがあった。

情報ネットワーク（ホームページ）の役立ち度については、「役立っている」55%と「まあまあ役立っている」40%を合わせて95%と高い結果だった（図6）。役立っている内容の上位項目は、「一般への情報発信」「活動記録」「会員への情報発信」だった（図7）。今後の利用意向については、写真等を交えた情報発信と活動記録のニーズが高かった。

他団体、学生、行政などとの交流をはじめ情報交換や事業連携については、「あった」との答えはほぼ半数程度だった。学生がホームページに学習内容・感想を掲載したり、自主グループへ報告書を提出したケースがあり、そこでは「学生から若いエネルギーをもらった」「グループ運営に生かすことができた」との意見もあった。

地域連携ステーションのサイトアクセス状況は、図8に示すように、確実にアクセス件数が増加してきた。

調査結果からも、「会員のみならず一般にも広く情報発信できた」「他のグループとの交流もできた」「活動記録として残せる」等のメリットを認めた。しかし、依然として「ホームページへの入力がかたくできない」「インターネットはウイルスが心配で使いたくない」「書き込みについて匿名性が保てない」などの理由でパソコンを返却する自主グループも5グループあった。

表2 ホームページの活用効果（秋本，2004）

「ホームページに期待したいこと」
病気や障害と共に生きる体験的知識を活かすこと
積極的なコミュニティづくり
果敢にインターネットの活用を図ること
「ホームページを開設した効果」
体験的知識の波及に手ごたえ
ネットワークによるコミュニティの形成
ヘルパーセラピーの効果
「これからホームページに期待すること」
誰もが生きやすい社会づくりへの積極的参加
セルフヘルプの普及とQOLのより一層の向上
ネットワークの充実によるコミュニティの発展

## V. 考 察

自主グループ間にインターネットを活用した情報ネットワークの構築についての評価と、今後の課題について述べる。

今回の取り組みについては、各自主グループのホームページも次第に充実してきており、それぞれのお知らせコーナーなどに各グループの活動が積極的に掲載され、1) 情報の共有化や2) グループ内外の情報の伝達化・迅速化の実現、3) グループ内外の相互理解において、一定の成果を認めたと考える。また、自主グループでの学習に関する学生の意見をホームページに掲載し、自主グループのエンパワメントの一助となっているとも考えられた。今後は、自主グループの発展に寄与するひとつのツールとして活用されて行くことが期待される。

しかし、一方では自主グループでの情報ネットワークの活用や交流などができるように支援していく必要性も認めた。特に、グループでのPC操作やホームページへの入力操作への困難差がかなりあったことである。十分に有効な活用まで至っていないグループに対して、どのようなサポート体制を提供していくかが課題であった。機器使用に対しては、定期的なレクチャーを今後も継続していくことが重要であると考えられた。また、それぞれの自主グループから発信した情報に対する反応を即座に返しやすくするシステムづくりなど、情報ネットワークの活性化のための仕掛けづくりの工夫、改善が必要であることが示唆された。

秋本は全国のホームページを持つ78のSHG

に対してのアンケート調査で、ホームページに期待する効果を表2のようにまとめている(秋本, 2004)。

自主グループの機能の中で、ITネットワークの機能は、情報交換とサポートである。グループのメンバーは緊密で個人的な関係を通してお互いの経験を分かち合い、お互いをエンパワメントすることによって相互に情報交換やサポートを行うので、グループのメンバーの間に十分なコミュニケーションのとれる手段が必要である。そのため、ITネットワークの活用によって、参加しているメンバー全員と情報がすばやく共有できるというメリットがある。そのメリットを期待してのわれわれの今回の取り組みであった。

また、ネットワーク全体の問題として、プライバシーの流出やウイルスの流行といったトラブルから、どのように自分たちの安全を確保していくかということにも留意しなければならない。最近ではメールに添付される形でのコンピューターウイルスが大流行しており、あっという間に参加者に広がってしまう危険な事態となることが予想されるからである。われわれも、プライバシーやウイルスの流行に対して、グループへのサポート体制としてトラブル処理のための対応を行ってきた経緯がある。

このように自主グループでのインターネットの活用に関しては、メリット・デメリットを考慮しながら、その有用性を探求するばかりではなく、否定的な側面にも注意を払いながら、取り組むことが重要であるといえる。

## VI. おわりに

自主グループは、既存の専門サービスでは解決できない問題や人々の新たなニーズに効果を発揮している。自主グループに参加し、気持ちや体験、情報などをわかちあうことによって、疾患や障害、問題行動、生活上の悩みなどに自分自身で対処できるようになる。また、看護職はインターネットを使って情報提供することによって患者教育に有効とも言われており(Anderson AS et al, 2008), さらに、自主グループを支援することができ、そのグループに積極

的な関与をすることにより、地域貢献の一環にもなることが予想される。課題の解決をはかりつつ、今後インターネットの活用は自主グループの機能強化に非常に有効な手段になると思われる。

## 文 献

- 秋本信子 (2004) : セルフヘルプにおけるホームページの活用, 日本保健医療行動科学会年報, 19, 224-239.
- Adamsen L, Rasmussen JM (2001) : Sociological perspective on self-help group - reflections on conceptualization and social processes, Journal of advanced Nursing, 35 (6), 909-917.
- Anderson AS, Klemm P (2008) : The Internet: friend or foe when providing patient education, Clinical Journal of Oncology Nursing, 12 (1), 55-63.
- アラン・ガートナー, フランクリ・リースマン 著, 久保絃章監修 (1985) : セルフヘルプ・グループの理論と実際, 27-28, 川島書店, 東京.
- 岩本聖子 (2002) : インターネット上のセルフヘルプネットワークの現場から, 心理学ワールド19, 17-20.
- 奥山今日子 (2002) : 関心事や「問題」を共有する人々が参加するオンライングループに関する研究の現状と課題——当事者間の相互援助と専門家の介入の観点からコミュニティ心理学研究, 6 (1), 15-30
- 岡知史 (1994) : セルフヘルプグループの援助特性について, 上智大学社会福祉研究平成7年度報, 3-21.
- 岡知史 (1995) : セルフヘルプグループ (本人の会) の研究, 5, 186-190. 自費出版, 東京.
- 川村渉 (2001) : インターネットにおけるセルフヘルプグループ—電子メールによるカウンセリング活動, 現代のエスプリ418, 84-92.
- Katz AH, Bender EL (1976) : The Strength Us-Self-help Groups in the Modan World. New Viewpoints, 2-12.



- 久保絃章 (1998) : セルフヘルプ・グループの理論と展開, 2-20, 中央法規, 東京
- 窪田暁子 (2002) : セルフヘルプ・グループ, 保健の科学, 44 (7), 484-488.
- 阪本章 (2002) : インターネットの心理学 教育・臨床・組織における利用のために, 72, 学文社, 東京.
- 谷本千恵 (2004) : セルフヘルプ・グループ (SHG) の概念と援助効果に関する文献検討 - 看護職はSHGとどう関わるか, 石川看護雑誌, 1, 57-64.
- 文部科学省 (2007) 現代的教育ニーズ取組支援プログラム [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/19/07/07072005.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/07/07072005.htm)

平野 文子・山下 一也・斎藤 茂子・狩野 鈴子・伊藤 智子・高橋恵美子・別所 史恵  
加藤 真紀・坂本 功・金築 利博・阿川 啓子・青木 留美・飯塚 雄一

# Construction of an Information Network for Internet Information Exchanges among Self-Help Groups

Fumiko HIRANO, Kazuya YAMASHITA, Shigeko SAITO, Reiko KANO,  
Tomoko ITO, Emiko TAKAHASHI, Fumie BESSHO, Maki KATO,  
Isao SAKAMOTO, Toshihiro KANETUKI, Keiko AGAWA,  
Rumi AOKI and Yuichi IZUKA

Key Words and Phrases : self-help groups, information network, internet